

鈴木タカ 鈴木貫太郎夫人

鈴木(旧姓・足立)タカは、1883(明治16)年7月4日、足立元太郎、ツネの長女として札幌に生まれ、1895(明治28)年12月、父親の仕事の関係で横浜に転居。その後、1904(明治37)年3月、東京府立女子高等師範学校保母科を卒業して同年4月、同付属幼稚園訓導となります。

そのころ、皇孫御殿では宮中侍従長の木戸孝正を中心に裕仁親王(後の昭和天皇)の養育係を探していましたが、幼稚園でのタカの勤務ぶりが耳に入り、1905(明治38)年5月18日、当時4歳だった裕仁親王の養育係を命じられました。

1912(明治45)年7月30日、明治天皇逝去により、裕仁親王が皇太子となったことから、タカは1915(大正4)年3月31日に宮内省を辞職し、同年6月7日、鈴木貫太郎と結婚しました。しかし、動乱の時代、今日の運命さえ分からぬ日々が続く中、貫太郎翁を支え続け、終戦後は閑宿(現在の野田市)へ夫とともに戻ってきました。そして、目の前に広がる牧草地の有効利用を図ろうと貫太郎翁が援助した地元の青年農家たちとも積極的に関わりましたが、1971(昭和46)年9月23日、88歳で亡くなりました。

生前、タカは絵を描き、特に牡丹は好んだ題材でした。この作品が、当会に収蔵された経緯は残念ながら不明ですが、色紙の裏面に鈴木孝子85歳の署名があることから、1967(昭和42)年10月に描かれた晩年の作品と思われます。

[参考資料] 『戦後70周年記念誌 貫太郎翁の想い出』野田市教育委員会・閑宿を語る会(2015年8月4日)

